



ブラウンハイム自治会

昭和 57 年 3 月

4月の予定
4月11日 市長選挙
4月18日 自治会総会

昭和56年度

自治会活動を振り返って

昨年の4月、自治会活動を引き継いでから早いものでもう一年が経過しようとしている。そこで役員一同、一年間の活動を振り返ってみました。

役員部会

昭和56年度階段委員一同は、各種行事を通して会員相互の親睦をはかるとともに、住生活の向上と明るい居住環境を目指して活動してまいりました。

その中でも、全体事業の柱とした夏の第2回金沢シイサイドタウン祭りと秋の大運動会及び専門部会で実施した各種行事を会員各位のご協力のもとに行なうことが出来ました。

又、管理組合との連携では、廃品回収の自治会への移管(9月)、スペースの提供をうけ、集会所前に物置設置(11月)及び防災避難訓練等を実施しました。

ブラウンハイムを取りまく環境は、着々と整備されつつあります。住み良い街と子供達のふるさと創り

広報部

年度はじめ広報部では、色々なことを計画した。ここでは、紙面の関係もあり全てについては書き尽くせないもので、二三振り返って見たい。

赤れんがは、今回15号をもって昭和56年度の最終号となります。年四回の発行を通して、ブラウンハイム内の各団体の責任者の方々はじめ、自治会々員の皆さんから13件もの寄稿をいただくことができ、スムーズに発行できました。改めてお礼申し上げます。

次に投書箱ですが、一年間を振り返り、自治会からのPR不足と反省しております。

ですが、一寸低調だったと思います。ご意見、詩、俳句等の作品なんでも投函していいと思います。どしどしご利用下さい。

自治会活動の殆んど全ての行事について写真を撮り記録にしております。又、主な行事では、展示を行ない、ご希望の方には有料でお配りしましたが、二回の展示を通して150枚もの申込みをいただき、有難うございました。

防火防犯部

先日のホテルニュージャパンの火災は、私たちに避難訓練の大切さを教えてくれたのではないかと思えます。スプリンクラーをつけてなかったり、加湿装置が止めてあったり設備上の重大な欠陥がありました。従業者に避難訓練を定期的の実施させていたら、あのような大惨事にはならなかったでしょう。

さて、ブラウンハイム自治会が11月に行った避難訓練はどうだったでしょう。参加世帯が60%弱だったこと。避難に適した服装だっ

たかどうか? 避難袋を用意したかどうか? 等を反省してみると、「訓練だから」という甘い考えがあったように思えます。訓練は普段から本番の気持、心構えで行ってはおじめて効果があがるものです。

防火防犯部では消火訓練や応急手当の仕方等も、消防署の指導によって9月に行いましたが、やはり参加者が少なく、ブラウンハイム住民の防火に対する日頃の意識が低いように感じられます。「天災は忘れた頃にやってくる」ものです。普段から「転ばぬ先の杖」で非常食や避難袋を用意しておくこと、避難の確認をおこならないことなど心掛けましょう。

保健衛生部

住みやすい環境作りのためにと云う目的でありながら、新しく作られた地域の為、とりたて、新しく取り組んだと云う事柄はなかつた。住民の健康管理のための保健所からの回覧物の取扱い、ネズミ駆除、蚊の駆除等で、部としては、忙しくありませんでした。現在問題にされている臭気と共に、工場、並びに、道路建設に伴い、環境衛生に今後取り組んで行かなければならないのではないかと思います。

青少年部

部としての行事は次の通りでした。

7月 ラジオ体操
8月 映画と影絵の夕べ
ラジオ体操

12月 餅つき大会
2月 映画会

その他行ったことは、8月に花火遊びの注意書。9月にサーカスの割引キップの紹介。さらに文化部との協力関係で作品展とバザーがありました。バザーの収益金を子供会育成資金に使用したところまで準備が出来たことは喜ばしいことだったと言えます。一人でも多くの子供達を集めようと、前宣伝にポスターを活用しました。その他に5月に映画フィルムの準備のために、県立図書館の視聴覚ライブラリーへ自治会名を登録。

又、並二小学校の施設利用も今年度6月より登録制になりましたので、参加する事になりました。残念なことに、この並木地区には公共施設といっても学校関係のみで青少年のための施設がないことです。より活発な活動のために必要だと思えます。今振り返って思いますが、子供達が本当に主人公になれたのだろうか、大人の押しつけに甘んじていたのでは……?

文化部

ベランダの小さな水そうの底にじっとしていた我家の黄メダカが今日泳ぎ廻っていた。昨年の今頃、階段委員の引継ぎで第一回の会合が持たれ、「この一年忙しくなるな。」と思っていたら、アツという間に一年が過ぎ、次の委員の人との引継ぎ準備に追われております。

振り返れば、文化部を担当し、前任者の活動を手本として、私達なりに少しでも皆様と一緒に、又有意義な行事をと考え、青少年部の役員及び他の役員の協力のもとに活動してまいりました。

日頃家庭に閉じこもりがちな婦人の方々を対象とした手芸教室、子供を中心とした舟溜りで行った写生大会、さらにこれらの作品と皆様のご好意によるバザーを合せた文化祭を実施しました。これも、当初計画の行事を検討する過程で、色々の要望が出てきて大きくふくれ上ったり、逆に、準備等の都合から縮少した行事もありました。

私達、はじめての役員が行なう行事には不安がありました。が、会員皆様のご協力のおかげで、はじめて成功したと思えます。最後に皆様方に謝意を表し自治会の一層の発展を祈念いたします。

昭和56年度の主な活動

- 4月 総会 (4/9)
- 6月 旅費規定制定、救急箱購入、蚊の駆除、ゴミコン消毒
- 7月 赤れんが12号発行、薬剤散布 (7/12)、ラジオ体操
- 8月 映画会と影絵の夕べ (8/1)、ラジオ体操、第2回シーサイドタウン祭り (8/21、8/23)
- 9月 廃品回収移管、消火訓練 (9/13)、手芸教室、敬老の集い (9/15)
- 10月 共同募金、第3回ブラウンハイム運動会 (10/18) 赤れんが13号発行、写真展示
- 11月 物置購入、写真展示、防火避難訓練 (11/8) 写生大会 (11/11、11/23)、ソフトボール大会 (11/11)
- 12月 赤れんが14号発行、餅つき大会 (12/13)
- 1月 新春たこ上げ大会 (1/3)
- 2月 映画会 (2/21)、ネズミ駆除
- 3月 赤れんが15号発行、アルバム作成

餅つき大会

12月13日(日曜日)午前10時から、第2回餅つき大会が開催されました。当日は晴天に恵まれ、ブラウンの子供達のはしゃぐ姿に親達もニコリ。又、幹の会の方々をご招待しブラウン全体の大きなイベントとして定着しつつある餅つき大会といえそうです。

階段委員は前日から準備に大わらわ。杵を持ったことのある人は数人。……をやって人は皆無。「これで一体できるのかナ？」と心配する間もなく会員の方々の助言協力、力づけ。あ

れノシンが残つとるゾ。「早くつかないと行列がさばけんゾ」。「日陰で立っていると寒いワ」。「やっばり冷えるネ」。「そらもうすぐ正月。冬だもん」。「子供らにもつかせる」。「さあ並んで並んで」。「臼がさめるからお湯を」。「足りるかねお餅」。「サア」。「そんな様子を幹の会の方々は嬉しそうに満足げな笑顔」。「ウンやっばり餅つきは楽しいネ」。「でもペタンペタンとのんびりつく餅つきが懐かしいといった風の親達の顔。今後やるなら自治会で道具を揃えた方がいいのでは……。そうですネ。その

方が安心出来ます。他の自治会でもやり始めると道具の調達が大変です。皆さんご協力ありがとうございます。



グリーンカード制度

少額貯蓄利用者カード制度のこと。59年1月から利子・配当所得の源泉分離課税を総合課税に移行させるにあたってマル優などの利用者番号を書いたカードを発行し、その利用状況をチェックできるようにする制度。架空名義などによってマル優などの利子非課税制度が悪用されるのを防ぐのが直接のねらい。

55年3月にグリーンカー

ド制度の導入を盛り込んだ所得税法改正案が成立、58年からはカードの交付が始まる。

自民党の税制調査会は、このグリーンカード制度についての問題を検討してきたが、議論の的となっていった本人確認について、当初考えられていた方法を大中に緩和することとし、かつ55年以前の架空名義預金等に対する課税上の取扱いに際しても緩和の方針を決定した。これによって党内のグリーンカード制度反対論もどうか鎮まり実施が決定された。

そのやり方は①マル優を利用する人に税務署がカードを発行する②カードにマル優の利用状況を記入し限度額を超えていないか点検する——などの仕組みとなっている。カード番号は国税庁の電算機で管理する。

お誕生おめでとう

- 12月1日 松本 理紗子ちゃん (20-4-504)
- 1月21日 続木 敏晶くん (20-4-301)
- 12月22日 大橋 達也くん (21-3-403)
- 9月11日 木内 謙一くん (20-1-203)

映画会

2月21日夕方5時半よりブラウンハイム集会所にて子供達のための映画会を開催しました。

当日は、日中より雨が降り、子供達の集り具合が心配されましたが、元気のいい子供達が、60人も集ってくれました。自治会の年度計画では、子供工作教室の予定でしたが、準備不足と、指導者が見当たらないということと、急遽、映画会ということになった訳です。しかし、集ってくれた子供達にとっては、楽しい映画だったと思います。一本目は『コンタと森の仲間達』という人形劇で、友達同士協力し合っつて一つのことを為し遂げることの苦しみと喜びを描いていました。二本目は、『ちびでか物語』という劇映画でした。物語は、5年2組に転校してきた大山雄三にクラスのみんなは、さっそくデカ三というアダ名をつけました。ふとちよで気の弱いデカ三君も、強気でがんばりやのチビ健君(小松健一)の努力とその影響で次第に強くなっていくという、明るい友情の物語でした。競争社会の波の中にいる現代は、人の為に努力する、あるいは真の友情がつかみにくいと言われます。ちっぼけな映画会から子供達の精神的

な成長の一助になれば幸いです。な事かと思えました。

えいがを見て

酒井 健志

ぼくは、ともだちが大スキです。「小まつくんが、ひっこしていったときは、さみしかっただろう」とおもいます。

大山くんは、たいいくがきらいでしたが、やるきをだして、「はい」といってやり、やっつとできるようになりました。

また、うんどうかいのとき、小まつくんが大山くんのせなかをおしてあげたおかげで、大山くんがうんどうかいになりました。うんどうかいがおわって、大山くんのおかあさんが、「よかったね」といい、小まつくんに「小まつくんのおかげで、やっつと一とうになつてありがとう」といいました。小まつくんは、ひとこともいわないで、しょんぼりしてかえりました。小まつくんは、うんどうかいに、だれもきてくれなくてさみしかったのです。

ぼくは、ともだちがなによりも、どんなにたいせつかよくわかりました。ともえいがおもしろかったです。ぼくもてんこうしてきた子でもだれとでもなかくしたたいとおもいました。小まつくんのまねをして、やさしいげん気な男の子になりたいとおもいます。